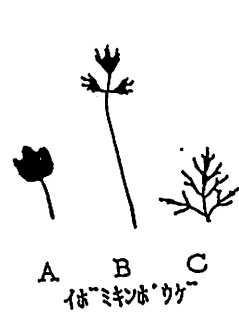
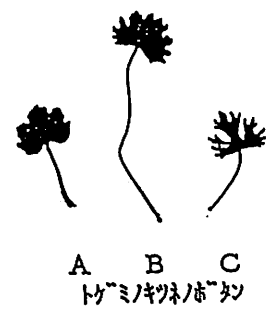


課題名	24 雑草防除及び生育調節剤に関する試験	分類	②
	麦圃キホウカ科雑草の除草剤による防除法		
試験研究年次	63~1年(完了)		
<p>I 目的 近年、キホウカ科の帰化雑草であるイモミキホウカが大川市で約150haとトクミノキツネノホトクが小郡市、嘉穂郡額田町の麦圃等で約20ha発生し、問題となっている。このため、生育期処理剤による防除法について検討した。</p>			
<p>II 試験方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 試験実施場所：大川市、小郡市 供試作物及び供試品種： 大川市…小麦、農林61号 小郡市…昭和63年は大麦、あまぎ二条 平成元年は小麦、シカネホトク 土壌条件：大川市…埴土、小郡市…壤土 播種期：大川市…11月18日 小郡市…昭和63年は12月7日 平成元年は11月24日 供試除草剤及び10a当たり処理量： クワスジノ水剤…300gと500g、MCPノ塩液剤…300ml (比) アチノ乳剤…200ml 処理時期：1月中旬～3月上旬にかけて各年3時期 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>A B C イモミキホウカ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>A B C トクミノキツネノホトク</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>A…第1葉 B…根生葉 C…茎に着く葉</p> </div>			
<p>III 主要成果の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> クワスジノ水剤は、雑草生育期処理で実用性が高い。なお、麦類の6葉期(2月中旬)以前の処理では葉害(奇形穂)を生じることがあるので、散布時期に注意する。 麦圃での発生消長は両種とも同様の傾向であり、発生始期は12月中旬、発生盛期は12月下旬～1月上旬であり、その後の発生は少ない。 土入れによる除草効果は対無除草区比率50%程度である。このため1月～2月にかけて補完的に実施する。 MCPノ塩液剤の300mlの2月処理は、葉害(奇形穂)が発生し易い。特に大麦での葉害が大きい。 アチノ乳剤の200ml処理は、年次及び処理の時期による効果の変動が大きい。 			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 徳島県徳島市に対する除草効果及び薬害の程度 (大川市、小麦)

年次	処理	処理 時期	残存雑草 対無処理 区比率	薬害	精麦重	年次	処理	処理 時期	残存雑草 対無処理 区比率	薬害	精麦重	
		月・日	%		kg/10a			月・日	%		kg/10a	
昭和 63 年	グー500	2・20	0	無	347	平成 元年	グー300	2・15	t	極微	466	
	MCP300	"	1	微	341		グー500	"	0	極微	473	
	アチ200	"	3	無	318		アチ200	"	9	無	477	
	土入れ	1・31、2・15	66	—	336		-----					
	無処理	—	(44.5g)	—	297		グー500	3・7	0	無	509	
平成 成年	グー500	1・17	t	微	453	アチ200	"	41	無	474		
	アチ200	"	61	無	471	土入れ	2・5	40	—	472		
						無処理	—	(18.9g)	—	443		

注) ①処理のグー300はグーラシジンM水和剤の300g、グー500はグーラシジンMの500g、MCP300はMCPソーダ塩液剤の300ml、アチ200はアチフェール乳剤の200ml処理区である。
 ②薬害の症状は奇形穂である。
 ③調査月日は昭和63年が3月18日、平成元年が4月2日。
 ④無処理区の()内は、㎡当り風乾残存雑草量の実数。

第2表 トゲミキゾノに対する除草効果及び薬害の程度 (小郡市)

年次 及び 作物	処理	処理 時期	残存雑草 対無処理 区比率	薬害	精麦重	年次 及び 作物	処理	処理 時期	残存雑草 対無処理 区比率	薬害	精麦重
		月・日	%		kg/10a			月・日	%		kg/10a
昭和 63 年	グー500	2・14	t	無	432	平成 元年	グー300	2・9	3	無	596
	MCP300	"	7	大	420		グー500	"	t	"	578
	アチ200	"	46	無	409		アチ200	"	3	"	557
・ 大 麦	グー500	3・10	t	無	448	・ 小 麦	グー500	3・8	0	無	560
	アチ200	"	50	"	431		アチ200	"	6	"	589
	土入れ	3・2	43	—	404		土入れ	"	49	—	573
	無処理	—	(9.4g)	—	372		無処理	—	(24.8g)	—	571

注) ①処理の記号及び薬害の症状は第1表の附記に同じ。
 ②調査月日は昭和63年が4月18日、平成元年が4月2日。
 ③無処理区の()内は第1表に同じ。

V 成果の評価と取扱上の留意点

グーラシジン水和剤は麦類に対して登録はない。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名

昭和63年度、平成元年度 福岡県農業総合試験場筑後分場 普通作物研究室 秋冬作試験成績書
 昭和63年度、平成元年度 福岡県農業総合試験場農産研究所 作物栽培研究室 秋冬作試験成績書